

みんなに育てられてきた自然資料館の 20 年とこれから

平田 慎一郎

きしわだ自然資料館が、約 300 点に及ぶ野生動物の剥製の寄贈を受けたことをきっかけに開館したのは 1995 年 6 月 1 日で、今年で開館 20 周年を迎えました。私自身がスタッフとして自然資料館に関わるようになったのは 1999 年からの 16 年ほどで、開館当時のことはわからないのですが、実質的な準備期間が約 2 年と短く、展示に使えるような標本・資料類がない、展示や収蔵のための什器も揃っていない、学芸員など専門職員もわずか 2 人と、苦難の中でのスタートだったそうです。

現在では、展示や収蔵資料がそれなりに充実し、「チリメンモンスター」など人気の学習プログラムも生まれ(写真 1)、協働組織としての友の会も存在していて、開館当初よりずっと「自然史博物館」らしくなりました。この成長をもたらしたのは、歴代スタッフの努力はもちろんあるのですが、多くの人たちが館の内外でサポートしてくださってきたことも大きいと私は感じています。過去からの蓄積がほぼないなかで、展示に使えるような標本集めに奔走してくださってきた先生方・学芸員の専門でない分野について、ほとんどスタッフ並みの働きで対応して下さったアドバイザーや専門員、友の会会員の方々。自然資料館をもり立てつつ、子どもたちが地域の自然に親しめるようにと積極的に館を活用して下さった多くの利用者みなさん。そして開館前は外部専門家として、開館後は非常勤の館長および友の会会長として、学芸員を後ろから見守り、要所所所的確なアドバイスをしつつ、



写真 1. 当館発祥の学習プログラム「チリメンモンスター」

自然資料館の経営課題に心を砕いてくださった千地万造先生。残念ながら、千地先生は本年1月31日にご逝去なさいましたが、先生がよく口にされていた「みんなで育て、みんなで楽しむミュージアム」というスローガンは、まさにこうして多くの人たちに支えられて成長してきた自然資料館の姿を言い表したものであり、その精神を引き継いでゆかねばと考えています。

もちろん、現在の自然資料館が「自然史博物館」として、また岸和田市立の教育機関として、十二分に機能を発揮できているかという点、まだまだ不十分なところは残っています。調査・研究および資料の収集・整理・保管という、博物館活動の基礎となる部分が遅れ気味なのはここ数年来の課題です。同じ教育委員会所属でありながらも、市内学校・園との近く深い関係は十分つくれていないように思います。自然資料館へは、社会見学などで多くの児童・生徒のみなさんに訪れてもらっていますが、市内すべての学校・園でそうなっているわけではありません。また、チリメンモンスターなどの実習を体験してもらうため、館のスタッフが出前授業で学校をよく訪れているのですが、呼んでくださるのは実習内容自体に興味をお持ちの先生がいる学校・園が中心で、どちらかという点市外の学校から呼ばれることの方が多くなっています。学校見学用ワークシートなども用意していますが、学校の先生方から意見を伺いながら作成すれば、中身はさらによくなったことでしょう。こうした課題を少しでも減らせるよう、いろいろなことと取り組んでゆきたいと思っています。

自然資料館では、今年始めに出前授業として実施可能なプログラム一覧を学校宛に配布させていただきました。小中学校の先生方に自然資料館ができることをもっと知ってもらい、実際に授業等で活用する一助になればと考え作成したものです。もちろん、各学校で取り組むべき内容には違いがあるでしょうから、メニューにない学校独自の要望にもできる限りお応えしてゆきたいと考えています。学校の先生方と協力することでよりよい学習プログラムが生まれるでしょうし、それをきっかけに自然資料館と学校との関係が深まるかもしれません。ここ数年は、自然資料館へ研修に来られる若い先生が増えています。これも館が持つ資源や活動内容を知ってもらうよい機会であり、それらを授業などで活用してもらうのにつながるのだと捉えています。自然資料館の次の20年に向けた道のりには、これまで以上に多くのみなさんの協力が必要になると思われませんが、それに学校・園の先生方がたくさん加わってくださることを、大いに期待しています。

(ひらた しんいちろう：自然資料館)

山ノ内遺跡の植生変遷

虎間 英喜

考古学はヒトが残した痕跡やモノの研究を通し、当時の社会や生活などの変化を研究する学問です。ところが、発掘調査の現場で発見されるのは、古の人々が暮らした痕跡（遺構）や彼らが使った道具（遺物）ばかりではありません。

かつて、山ノ内遺跡（田治米町）で発掘調査を実施した時のことです。調査の一環として、遺跡内の当時の植生を推定するために、地表面の掘り下げを行いました。堆積した土壌は、下の層ほど古く（弥生時代中期後半）、上の層ほど新しくなるのですが、その層が形成された時期の花粉化石の構成や量の変化を調べることで、当時の植生を推測することが可能となります。検出した土壌をサンプリングし、分析を行ったところ興味深い結果が出ましたので簡単にご紹介します。

今回の調査では、最も深く掘り下げた所で地表面下約 2.2 m で、堆積した土層は 21 層にものぼりました。結果、山ノ内遺跡の地層は花粉組成の違いから P2 帯時代と P1 帯時代の 2 時期に大きく区分されることがわかりました（図 1）。最下層の P2 帯は、概ね弥生時代中期から後期に該当する時代で、シイ（シイノキ属）やカシ（アカガシ亜属）の花粉化石が多く見られたことから、温暖帯常緑広葉樹林が広がっていたと推測できます。この時代にはブナの花粉化石は認められませんでした。また、山ノ内遺跡から南東方約 2 km に位置する二俣池西遺跡^{ふたまたいけ}でも同様の状況が認められています。このようなことから、和泉葛城山には当時ブナはさほど多くは生育していなかったと考えられます。

続いて、古墳時代から古代に相当する P1 帯 a 亜帯では、イネが出現してきます。この時代になって本格的に稲の耕作地が拡大したとみられます。また、カシはほぼ同様に生育しているものの、シイが減少し、マツ（ニヨウマツ属）が増加を始めます。これは、マツによる二次林化の結果と考えられます。須恵器生産の燃料としてカシが大量に消費されたためでしょうか。一方、この時代になるとブナも出現しており気候が寒冷化していたことが推測されます。鎌倉時代から室町時代に該当する P1 帯 b 亜帯では、カシが減少の兆候をみせ、シイが衰退してしまいます。そして、それらと入れ替わるように、マツが増加しています。P1 帯 a 亜帯の終わり頃に出現したヤマモモは、b 亜帯でも継続して生育しています。続いて、P1 帯 c 亜帯についてですが、この時代は概ね江戸時代に該当します。カシ、シイともに衰退し、コナラが増加し二次林化していったようです。この時代になると、アブラナとソバが出現します。最も新しい時代の P1 帯 d 亜帯は、大部分がマツやコナラなどの二次林を構成する植物だけとなり、自然植生要素はほとんど姿を消します。以上のことから、田治米町周辺において

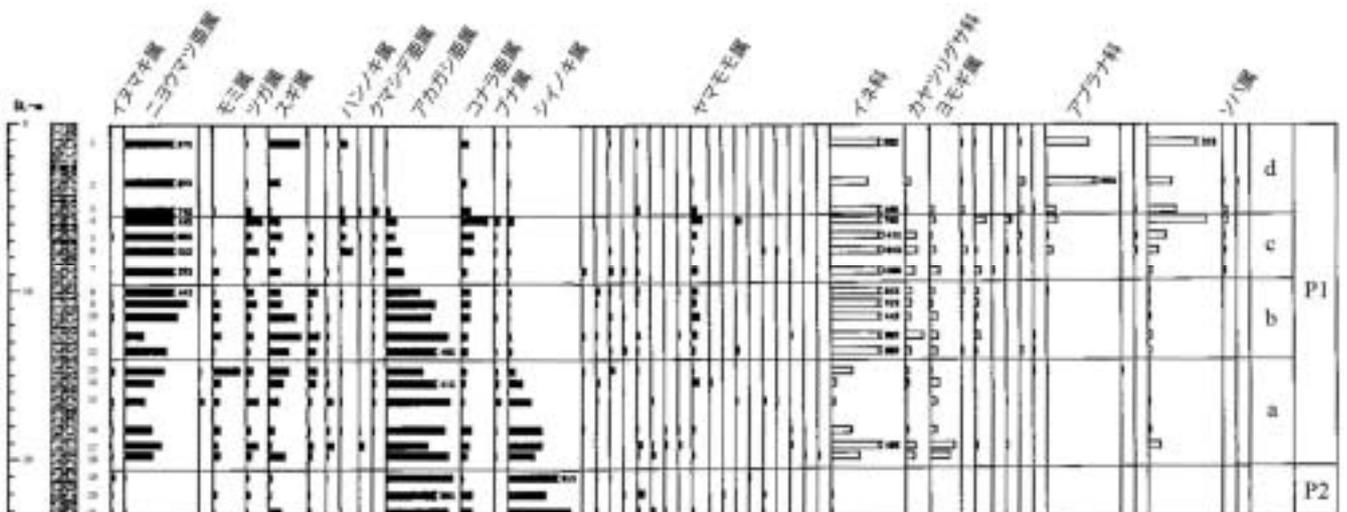


図 1. 東壁断面の花粉化石ダイアグラム。財団法人大阪府埋蔵文化財協会調査報告書 第 34 輯「山ノ内遺跡」, 1988 を一部改変。

は、江戸時代になって稲作のかたわらその裏作として商品作物であるアブラナやソバの栽培が盛んになってきたことがわかりました。このように、地層に含まれる花粉化石を見ることによって、植生の変遷だけでなく、その当時の人々の社会や生活の変化を推測することができます。

(とらま ひでき：郷土文化室)

Information

■岸和田城の展示案内■

企画展「尾生遺跡展 谷間を開拓した弥生・古墳時代のムラ」

尾生遺跡(尾生町周辺)で発見された五角形の竪穴住居跡のパネル展示や弥生～鎌倉時代の土器などの遺物から尾生の谷の謎に迫ります。

日 時：2015年7月15日(水)～2015年10月18日(日)

時 間：午前10時～午後5時(入場は午後4時まで)

場 所：岸和田城天守閣

入場料：大人 300円、中学生以下無料

【きしわだ自然友の会 会員募集】

きしわだ自然友の会は、自然資料館と協力し、独自の行事や出展、会誌などを通して自然を楽しく学んでいる団体です。

自然が好きで、生物や地学をもっと楽しみたい・学びたい人は、ぜひご入会ください。未就学児の方も参加できる行事も多数あります。

学校園の授業に活用できるプログラムもあります。

- ・対 象：身近な自然に興味のある個人・家族
- ・期 間：4月1日～翌年3月31日
- ・費 用：個人会員年間2,000円(中学生以上の方が1人である場合)・家族会員3,000円(同居家族全員が対象)、特別会員年会費

10,000円(友の会を援助してくださる人・団体)

- ・ 申込・問い合わせ：4月1日から直接、きしわだ自然友の会(自然資料館内 072-423-8100へ)

遠足や社会見学に、自然資料館をご利用ください。

自然資料館は、大阪南部のいろいろな自然を紹介する自然史博物館です。

展示室には、化石などの実物標本や模型、ジオラマ、体験コーナーなどがあり、見て、ふれて、体験することで、身近な自然をしっかりと学ぶことができます。

春の遠足や社会見学などに、ぜひご利用ください。ご予約のうえ、減免申請書を提出していただくと、教職員をふくむ全員の入場料が無料となります。雨の場合のみの予約も可能です。

近くには、岸和田城や城下町など、歴史の勉強ができる施設もあります。

お願い [fromM]は、学校教職員に1部ずつお配りください。

担当の方はお忙しいところ申し訳ありませんが、よろしくお願ひ申し上げます。

【from M】では、みなさまからのご意見、ご感想、ご質問等をお待ちしています。博物館での学習、研究等に関する情報、地域の自然環境や歴史に関する面白いトピックスなどがありましたら、ぜひご投稿ください。お名前、連絡先、所属等をご記入の上、右記の宛先までお送りください。電子メールでも受け付けています。

連絡・問い合わせ先

〒596-0072 岸和田市堺町 6-5 きしわだ自然資料館

TEL: (072) 423- 8100 FAX : (072) 423- 8101

Email: sizen@city.kishiwada.osaka.jp

自然資料館ホームページ URL:

<http://www.city.kishiwada.osaka.jp/site/shizenshi/>

(Yahoo Japan の検索で「きしわだ」と入力し、検索すれば、簡単です)